

東区

街道を

ゆく

軽便鉄道終点跡

天竜座跡



このコーナーでは、東区の街道周辺の史跡や文化を伝える資源解説板などを紹介します。

明治42年から昭和12年まで、浜松（中区馬込町）から中野町の間に軽便鉄道「大日本軌道中ノ町線」が通っていました。後に遠州軌道株式会社が経営を引き継ぎ、現在の遠州鉄道株式会社に発展します。その軽便鉄道の終点がこの場所です。当時は方向転換用の転車台もありました。停車場の周りには、切符を売る駄菓子屋や呉服店、下駄屋、芝居小屋、小料理屋などが建ち並び、華やかな街並みでした。地元の旦那衆が設立した「中野町タクシー」の配車場も軽便鉄道終点の隣にありました。

昭和の始めころ、この場所には芝居小屋「天竜座」があり、大衆演劇の殿堂として、中野町の人たちや軽便鉄道で訪れる近在のお客さんたちでにぎわっていました。客席は座敷で、二階席や花道もありました。公演が決まると、チンドン屋を先頭に、役者がのぼりを立てて宣伝して回ったようです。第二次世界大戦が激しくなると、建物が爆撃の標的になるとの理由で取り壊されてしまいました。戦後、ここには浜名郡信用組合が設立され、それが今日の遠州信用金庫の発祥となりました。

東区協議会だより

Vol. 73

5月23日(木)、第2回東区協議会が出席委員19人で開催されました。

諮問事項について

新市建設計画について

市民協働・地域政策課から説明がありました。

〈委員からの質問〉

Q 新市建設計画の6つの柱に津波対策事業と防災減災事業を追加するの
か。予算も追加されるのか。

A 現行の6つの柱の1つに津波対策事業と防災減災事業を追加し、計画期間を延長する。事業が増え、期間が延長する分、予算も追加される。

Q 平成32年までの期間延長は、財政的に余裕をもたせるためか、それとも津波対策事業と防災減災事業の充実のためか。

A 平成17年度に新浜松市として合併した際に算定した合併特例債は、現在の計画では565億円を計上している。今回見直しは、津波対策事業と防災減災事業を追加し、特例債を活用すること、期間の延長により特例債の発行可能期間を確保するものである。

協議事項について

地域力向上事業について

区振興課から、平成24年度実施の地域力向上事業事後評価について説明

がありました。

〈委員からの質問〉

Q 区協議会での評価の位置づけはどのようなものか。

A 事業実施要綱では、事業の評価は区行政推進会議で1次評価を行い、区協議会で2次評価を行うこととなっている。そのため、1次評価した資料を事前に配付し、区協議会では、事業の担当課が評価内容などについて説明をして、ご意見などをいただく方法で実施している。今後、区協議会での評価方法を検討する予定である。

Q 評価点数は1次評価の点数なのか。2次評価では各委員の意見を載せる所が無く、報告を聞いているだけに感じる。

A 1次評価では実施した課で採点した点数が妥当かどうかの判断をしている。評価の方法は改善の余地があるので、今後の検討課題としたい。

Q 評価の内容にある、事業の見直しとはどのようなことか。

A 見直しには、事業規模の拡大・縮小、事業実施方法の改善などがある。次年度以降も事業を実施する場合に、よりよい事業になるよう、この評価での見直し内容を検討するよう依頼するものである。

